



総裁秋篠宮皇嗣妃殿下

ご動静

第74回結核予防全国大会より

と き 令和5年2月14日、15日

ところ ホテル日航熊本(熊本県熊本市)

秋篠宮皇嗣妃殿下は、14日に研鑽集会のご聴講等をなされ、15日の大会式典にご臨席になりました。式典ではお言葉を述べられ、秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者に表彰状を授与されました。



本日、「第七十四回結核予防全国大会」が熊本県において開催され、全国から参加された皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。そして、この大会を開催するために準備をしてこられた関係者の皆さまに、感謝いたします。

まず、「第二十六回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、お祝いを申し上げます。また、この度の受賞者をはじめ、結核対策に貢献してこられた方々に、深く敬意を表します。

日本の結核は、二〇二二年の統計では、罹患率が人口十万人対九二となり、低まん延化が初めて達成されました。しかし、この年も、約二万二千五百人が新たに結核を発症し、約千八百人が命を落としました。新規登録結核患者の四割以上は、八十歳以上の高齢者です。また、若年層の結核患者には外国出生者が多く、特に二十代では、新規登録結核患者の七割にのびります。このようなことから、これからも、結核患者の早期発見や治療に力を入れるとともに、罹患率が高い国に対する協力をおこなうことが求められております。

昨日の研鑽集会では、災害時や感染症流行時の医療について基調講演があり、それに続くシンポジウムでは、地域の支援センター、医療機関、保健所、結核予防婦人会から、それぞれの災害時の対応や結核対策の取り組みについて発表がありました。災害後の医療や生活再建に加え、感染症の世界的な流行という困難の中で、地域の人々に寄り添いながら関係者が力を尽くされていることを、とても心強く思います。

先日は、トルコ南東部を震源とする地震が発生し、トルコとシリアに甚大な被害を及ぼしました。多数の人が命を失い、被災された人々が厳しい状況におかれていることに心を痛めております。極めて寒い天候の中です。ごす人々の健康が守られることを願わずにはいられません。そして、災害時における医療・保健はもとより感染症対策が重要であることに、改めて思いをいたしております。

結核予防に関わる皆さまが、ご自身の健康に留意されながら、今後さらに活躍されることを願い、式典に寄せる言葉といたします。